



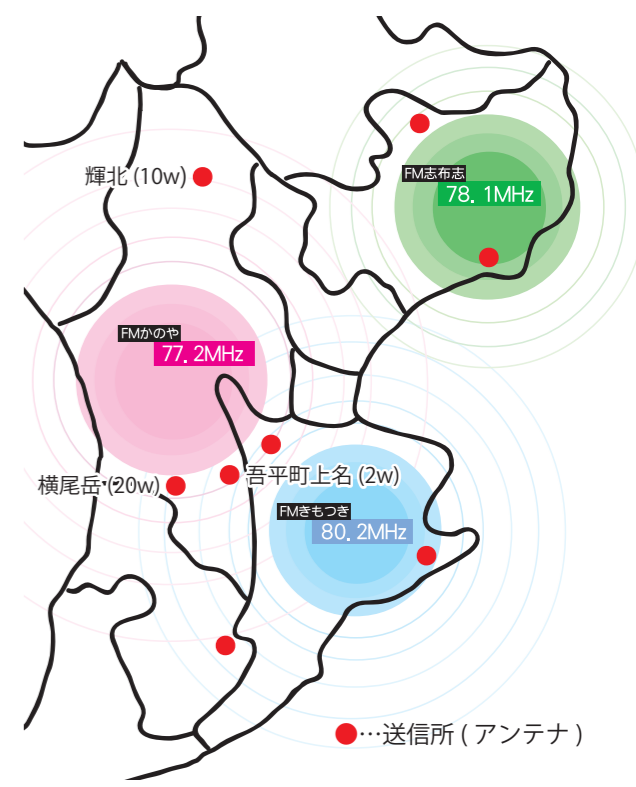
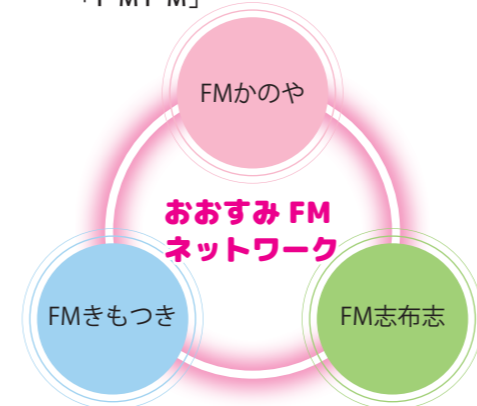
生放送「おおすみ おはようラジオ」



地域をつなぐコミュニティ放送

～祝 FM かのや開局 10 周年～

8月で「FMかのや」は誕生して丸10年になります。「FMかのや」は、平成18年8月4日、県内で2番目に開局したコミュニティ放送局です。肝付町の「FMきもつき」、志布志市の「FM志布志」とともに「おおすみ FM ネットワーク」を構成し、3局共同で放送を行っています。



コミュニティ放送（コミュニティFM）とは、地域に密着した情報を提供することで、住民参加による地域の活性化を図ることを目的に平成4年に制度化された放送形態のことです。

送信出力は20W以下で、運営は、総務大臣の免許を受けた民間企業や第3セクターのほか、「FMかのや」を運営している「かのやコミュニティ放送」のようなNPO法人が行います。FM放送の電波は、直進性に優れ、アンテナが見通せる場所であれば受信が可能です。また音楽等に適した高音質の放送で、一般に市販されているFMラジオで聴くことができます。

地域密着の話題

「コミュニティ放送の最大の特徴は地域密着の話題を提供することです。」

例えば「近くの公園でこんな花が咲いています」、「公民館で展示会をしています」といった話題は、全国や県内を対象とした放送ではなかなか取り上げられにくいものです。しかしコミュニティ放送は、エリアや対象者が限定されていることから、身近な話題が、リスナーにとって有益な情報となります。また、これまで地域のお祭りや発表会などの告知を行いたくてもできなかった、小さな団体や個人にとっては、使い勝手の良い広報手段となっており、地域に埋もれていた情報や眠って

災害時の役割

いた資源を掘り起こす重要な役割を果たしています。

熊本県と大分県に大きな被害をもたらした「熊本地震」。家屋の倒壊や停電、余震の影響により、避難所や車の中で不安な日々を過ごす被災者の貴重な情報源となったのが、地元のコミュニティ放送や臨時災害FM放送でした。ほとんどのマスメディアが被害状況についての報道を行う中、被災者が必要としている粗大ゴミの収集や給水、支援物資の配布内容といったきめ細かい生活再建情報をリアルタイムで発信したのです。

「FMかのや」も同様に、平成18年10月に市と締結した防災



渋滞や事故が多発した1月の大雪

協定に基づいて、台風や長雨等の防災情報や災害時の情報発信を行っています。今年1月、市では5年ぶりと

「FMかのや」の情報のお陰で助かりました

私は市内の運送会社でドライバーとして働いていて、普段から運転中に「FMかのや」を聴いています。

今年の1月25日、市内に大雪が降った翌朝のことです。旭原町の営業所から共栄町方面に向かう車の中で「FMかのや」を聴いていたところ、大雪による交通渋滞について詳しい情報を伝えていました。

私が行こうとしていた坂も渋滞しているとわかり、急きょ傾斜の緩やかな坂へルートを変更。地元の放送局ならではの詳しい情報のお陰で、大事な荷物を時間通りに配達することができ、本当に助かりました。またお客様からも「時間通りに到着してくれてありがとう」という嬉しい言葉をいただきました。



「FMかのや」リスナー 日高順一さん

県内のコミュニティ放送局の状況

今年4月、大隅半島では5番目となるコミュニティFMが曾於市に開局し、県内のコミュニティ放送局は13局となりました。これは北海道、沖縄県に次ぐ全国3位の数です。

全国的に見ると、災害時のラジオの重要性が再認識された、平成7年の阪神・淡路大震災後に急増。近年では毎年10局前後が開局しており、現在その数は300を超えています。



- ① FRIENDS FM762
 - ② FMかのや
 - ③ FMきもつき
 - ④ FM志布志
 - ⑤ ディ！ウェイヴ
 - ⑥ FMたるみず
 - ⑦ エフエムうけん
 - ⑧ FMぎんが
 - ⑨ エフエムせとうち
 - ⑩ FMさつませんだい
 - ⑪ プラスきりしま
 - ⑫ エフエムたつごう
 - ⑬ SOO Good FM
- ※並びは開局順